

## ■今月の特選句

2017年3月

## ごみ袋のやうに出されて日向ぼこ

赤瀬川至安

定年退職後は、権威の逆転現象が起きる。「ゴミ袋のやうに出されて」では扱いが優しい。「ゴミとして掃き出されをり」はいかがでしょうか。

## 仮の世をこの世とみせて曼珠沙華

稲沢進一

曼珠沙華の妖しく美しい不思議な魅力の秘密をこの句が解明した。曼珠沙華は「彼岸花」。彼岸こそが本当の世界。仮の世に咲く本物の花なのだ。

## 神ってる黄身二つなる寒卵

壽命秀次

人知では測り知れぬ現象が起きた時に、「神ってる」と言う。昨年、広島カープの緒方監督が使って話題になった。今年こそ神ってる俳句を作りたい。

## 自動ドア勝手に開き春來たる

稲葉純子

まだ心の準備ができてないのに春が来た。まるで自動ドアが勝手に開くように、いつの間にか来ていたんだね。「自動ドア春を待ちかね開きけり」。

## 感情を抑へて閉める障子かな

山本賜

本当はわざとピシヤリと音を立てて閉めたかった。「時々は静ひもある障子かな」。もちろん、楽しい時もある。「夫婦して笑ひ爆発する障子」。

## マスクして鼻の低さを思い知る

小川鈍太

川柳は他者を詠む。俳句は自分のことを詠む。自虐ネタですね。眼鏡をかけた時にも感じます。「サングラス鼻の低さを思ひ知る」。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

雛飾りまだもめてゐる右左  
・・・一年毎に交代しよう

越前春生

底冷えにトイレの神の呼んでをり  
・・・暖房便座は温き神様

井口夏子

漁獲量少なき烏賊も高級魚  
・・・黒まぐろとも肩を並べむ

ひがし愛

あっけらかん臍（ほぞ）嘔むことなし雨蛙  
・・・へそくり隠す場所もまた無し

泉宗鶴

豆浴びた鬼も一緒に鍋つつく  
・・・手を取り合つて寛容な世に

南とんぼ

猫の尻の目鼻に沁みて置炬燵  
・・・お前猫とは臭い仲だな

伊藤浩睦

月光の屋根踏み外し浮かれ猫  
・・・人に見られてゐるとも知らず

梅岡菊子

ぼろ市の火鉢の中に売上金  
・・・たばこの灰を落としてはダメ

久松久子

**寒明や汝今日よりただの鯉**  
・・・肩書とれて鯉の悠々

新島里子

**ニン月や早くも会費請求書**  
・・・遅れぬように納めて頂戴

奥脇弘久

**ときめききらめきよるめき春愉し**  
・・・四段切れの俳句もよろし

田村米生

**啓蟄や地下より人の溢れ出る**  
・・・人数なのに匹で数える

西をさむ

**置炬燵本音を言って蹴飛ばされ**  
・・・釘刺されたり締め出されたり

青木輝子

## ■今月の滑稽句

- |   |                      |
|---|----------------------|
| 【佳作】 案の定煤逃をして締め出され<br>煤逃の手の内読まれ釘刺され<br>小岩らに橋杭岩が冬の夜話     | 青木輝子<br>青木輝子<br>青山桂一 |
| 【佳作】 冬告げの風が空搔く大地搔く<br>薩摩でも雪降りをるに年魚市潟(あゆちがた)             | 青山桂一<br>青山桂一         |
| 一月十三日金曜日無事<br>【佳作】 ぼろ市のおつとつとつと九谷焼                       | 赤瀬川至安<br>赤瀬川至安       |
| 弾初の音合はせするシャンデリア<br>寒中の鶏はばたける異人館<br>【佳作】 雪なだれ神もほとけもおはすのか | 秋月裕子<br>秋月裕子<br>秋月裕子 |
| 冬ひなた寿命十分伸びてます<br>【佳作】 着ぶくれて年相応になりけり                     | 井口夏子<br>井口夏子         |
| 鬼やらい追われて鬼はホームレス<br>【佳作】 地藏さまの雪見は首まで埋もれて                 | 池田亮二<br>池田亮二         |
| 【佳作】 フラダンス歩く姿は百合の花                                      | 泉 宗鶴                 |
| 【佳作】 御祝儀の出ない初荷は蹴とばされ<br>二日の振替休日なんのため                    | 伊藤浩睦<br>伊藤浩睦         |
| 【佳作】 ちらり観る守り秘仏のご開帳<br>少子化はいまや昔の春炬燵<br>なくさめの洒落にちぢこむ名草の芽  | 伊藤洋二<br>伊藤洋二<br>伊藤洋二 |
| 【佳作】 かいつぶり影を沈めて去りにけり<br>約束の小さな公園梅一輪                     | 稲沢進一<br>稲沢進一         |
| 入学児まだ空つぼのランドセル<br>【佳作】 笑ふ山にも向う三軒両隣                      | 稲葉純子<br>稲葉純子         |

- |  |                      |
|--|----------------------|
| 【佳作】 寒肥や吾にも必要最中食ぶ<br>セーターやセールを待てば半額に                         | 井野ひろみ<br>井野ひろみ       |
| お財布を忘れてごめん椿さん<br>選挙カー行くや真上に揚雲雀                               | 上山美穂<br>上山美穂         |
| 【佳作】 諍ひの言葉のカクテル春愁ひ   | 上山美穂                 |
| 【佳作】 春泥の足洗はばや野の仏<br>星影のワルツに号(な)くや猫の恋<br>多羅葉(たらよう)に字を書けとこそ彼岸寺 | 氏家頼一<br>氏家頼一<br>氏家頼一 |
| 春隣ベンチの手話の笑ひ声   | 梅岡菊子                 |
| 【佳作】 なれの果てなれど梅干めでたけれ   | 梅岡菊子                 |
| 春の雪舞ふや白梅香らせて   | 梅野光子                 |
| 【佳作】 夫在せば夫まくはずの鬼の豆<br>紅梅と白梅競へば鯉はねる                           | 梅野光子<br>梅野光子<br>梅野光子 |
| 目覚しのいらぬ暮しや花大根  | 越前春生                 |
| 【佳作】 醍醐味といふチーズ喰み日脚伸ぶ   | 越前春生                 |
| しんしんと塵土に雪がしんしんと<br>久しぶり会うたび雛の若返り                             | 岡野 満<br>岡野 満         |
| 【佳作】 合格を聞いて諭吉と打合せ  | 岡野 満                 |
| 熱爛やさっきも聞いたその話  | 小川鈍太                 |
| 【佳作】 雪五尺雪見酒には多すぎる  | 小川鈍太                 |
| 【佳作】 春節の獅子よろよろと万事如意<br>一晩で砂吐く浅蜷誰に似て                          | 奥脇弘久<br>奥脇弘久         |

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| モンローを出せばダサイと春疾風<br>苗木市実の生る方を買ひにけり<br>【佳作】ラップめく読経にのせて鳥の恋    | 加川すすむ<br>加川すすむ<br>加川すすむ |
| 【佳作】冷蔵庫の中が温か寒波かな<br>曙てふ淡桜色の椿咲く<br>大雪を抱えて落ちる夢なれど            | 加藤澄子<br>加藤澄子<br>加藤澄子    |
| 晩年や青汁屠蘇の代りとす<br>一合の寒九の水で飲む葉<br>【佳作】初場所や国技を救ふ稀勢の里           | 川島智子<br>川島智子<br>川島智子    |
| 鏡餅尻の中から小餅出す<br>モナリザの痒がる背中電気毛布<br>【佳作】セーターの裏を表に帰宅する         | 久我正明<br>久我正明<br>久我正明    |
| 【佳作】菜園のうねうね曲がりはうれんさう<br>存亡の危機と言ひたて豆を撒く<br>ゆるキャラのやうな赤鬼やらひけり | 工藤泰子<br>工藤泰子<br>工藤泰子    |
| 万歩計に急かされてゐる冬散歩<br>【佳作】掛け直す右肩上がりの古暦<br>父母(ちちはは)の仲を取り持つ炬燵かな  | 桑田愛子<br>桑田愛子<br>桑田愛子    |
| のつけからシーンは濡れ場雪女<br>【佳作】役得にありついてゐる紙懐炉<br>笑ひ絵をにたりにたりとやる寝酒     | 小林英昭<br>小林英昭<br>小林英昭    |
| 【佳作】二月号きてから投句思い出し<br>初場所や横綱稀勢の里生まる<br>大統領令ツイッター並トランプ氏      | 佐野萬里子<br>佐野萬里子<br>佐野萬里子 |
| 立春大吉おしよくじけんのある日なり<br>【佳作】ブランコに株あがったりもどしたり<br>借金の過払金の帰る鴨    | 下嶋四万歩<br>下嶋四万歩<br>下嶋四万歩 |

姫始め心も軟になってゆく 【佳作】 大掃除誰が埋蔵金掘りあつ	壽命秀次 壽命秀次
振り向けば妻が手を振り女正月 【佳作】 しんがりに控へて入る冬至風呂 偏差値は右肩上がり風邪の声	白井道義 白井道義 白井道義
左義長や八百屋お七の恋尽きぬ 【佳作】 長針の一コマ一コマ日脚伸ぶ	鈴鹿洋子 鈴鹿洋子
カマキリが両手広げていい事有ったに違いない 【佳作】 私が出る幕じゃないレースのカーテン 大吉を過信すんなよボウボウ鳩なく	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
歩み寄る冬将軍に雨戸閉め 【佳作】 北窓を開けて気になる世間口 医療費のきっちり納まり納税期	高田敏男 高田敏男 高田敏男
トランプで始まり終わる一月尽 大マスクわからぬままに挨拶し 【佳作】 男やめ女もやめて梅真白	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
うかれ猫姿見せずに声変えて 【佳作】 ゆみちゃんのおむすびころりん梅開く 春苺光をはじき籠の中	高橋ユミ子 高橋ユミ子 高橋ユミ子
【佳作】 冬帝のだまし打ちの警戒せり 寒もちを老女の頬張りをりけり 西成の凍死者多く出たりけり	田中 勇 田中 勇 田中 勇
猫が食ふ夫婦喧嘩やむつみ月 【佳作】 春きざす耳毛鼻毛の伸び早し	田村米生 田村米生
お忍びの却って目立つ大マスク 婆嫁子豆打つ鬼は内にあり 【佳作】 通販が春よ春よと囃し立て	都吐夢 都吐夢 都吐夢

荒行の僧に追はるる鬼は外	飛田正勝
【佳作】女正月父の厨のコップ酒	飛田正勝
成人の子の返杯の小盃	飛田正勝
日向ぼこお地藏さんになりにけり	中井 勇
日向ぼこ我のいびきで我かえる	中井 勇
湯タンポを抱いて一人寝もう四年	中井 勇
春雨を野暮を承知の傘で行く	新島里子
【佳作】重ねたさかのてのひらよ春火桶	新島里子
【佳作】躊躇(ためろ)うて此岸彼岸のかずら橋	西をさむ
春分の北と南の指相撲	西をさむ
つまみ王目指し焼かれる目刺かな	花岡直樹
早春を感じずは気分ばかりなり	花岡直樹
【佳作】浮く雲もビールの泡も春めきぬ	花岡直樹
まんさくやまずは入国禁止令	原田 曄
金堂の邪気や無邪気や節分会	原田 曄
【佳作】枯蔦に洋館がんじがらめかな	原田 曄
【佳作】大根畠と足湯白きを競ひ合ふ	ひがし愛
お犬様大事に抱き枯野来る	ひがし愛
【佳作】西洋人十字を切つて初天神	久松久子
雪兎お家に入れてあげましょう	久松久子
春寒を我慢してゐるお洒落かな	日根野聖子
ドキドキやため息の欲しバレンタイン	日根野聖子
【佳作】納豆で鬼をからめむ節分会	日根野聖子



- |  |                         |
|--|-------------------------|
| 屠蘇の貌大道芸の猿の芸<br>【佳作】ブルドック年賀善悪人を嗅ぐ<br>上司宅厚顔に酔ひ節料理          | 藤岡蒼樹<br>藤岡蒼樹<br>藤岡蒼樹    |
| 咳込て己恨めし凍みる夜<br>【佳作】一月やトランプ時代幕が開く<br>鱈酒や河豚喰ったよな気分なり       | 細川岩男<br>細川岩男<br>細川岩男    |
| 五百両なり千両啄ばまれ<br>【佳作】寒波来る大統領は猿のボス<br>春昼のイナバウアーの大欠伸         | 本門明男<br>本門明男<br>本門明男    |
| 枯れ草の中なる石の魚は今<br>【佳作】神ってる生き返り咲く紅梅は<br>凍ゆるみ冬芽いよいよ濃い紅に      | 松井寿子<br>松井寿子<br>松井寿子    |
| 高階よりボーイソプラノ豆を撒く<br>下萌えて地虫の体温むずむずと<br>【佳作】春泥に竦む下ろし立ての靴    | 松井まさし<br>松井まさし<br>松井まさし |
| 【佳作】編めど編めどダックスフンドの腹巻き<br>酔い戻る足裏咎める福の豆                    | 南とんぼ<br>南とんぼ            |
| 【佳作】着ぶくれて悪を包みし善の顔<br>桂馬跳びまだまだ若き初詣                        | 村松道夫<br>村松道夫            |
| 黄水仙笑顔でをれば福来たる<br>やはらかくもの申すなり寒鴉<br>【佳作】鬼やらひ何の科にて払はるる      | 百千草<br>百千草<br>百千草       |
| 冗談言へる仲にも隙間風<br>【佳作】せせらぎをほつこりさせるねこやなぎ<br>しんしんと寝込みを襲ふぼたん雪  | 森岡香代子<br>森岡香代子<br>森岡香代子 |
| 【佳作】逝く春の忘れ物なりなごり雪<br>訳ありのマイチョコバレンタインの日<br>蔭の臺鳴り物入りで売り出され | 八木 健<br>八木 健<br>八木 健    |

名草の芽はつきり名前名乗りけり	八洲忙閑
【佳作】 声高く重心低く猫の恋	八洲忙閑
門扉なき鳩小屋に住み山笑ふ	八洲忙閑
【佳作】 待ち人は今駅を出た春近し	八塚一青
鬼の子のような我が子と年の豆	八塚一青
半歩先前へ導く遍路杖	八塚一青
【佳作】 体脂肪腹巻にして雪を搔く	柳 紅生
雪卸一枚脱いでまた一枚	柳 紅生
薄毛して厚化粧を笑ひ初む	柳 紅生
【佳作】 見えぬ目に見えて湯舟に春の皺	柳澤京子
孫拳式シェフのこだわり春宴	柳澤京子
春拳式空に遊泳亀の雲	柳澤京子
【佳作】 鍋ならぬ雪搔き奉行居りにけり	柳村光寛
残雪に白の加減のありにけり	柳村光寛
恋猫のもう決めてゐる朝帰り	柳村光寛
【佳作】 春一のちよつと小さめ春零番	山下正純
顔見せずマスク美人となつてゐる	山下正純
木枯の人走らせて大威張り	山下正純
多分さきがけ複雑な重ね着は	山本 賜
【佳作】 山吹の今に引き摺る昔かな	山本 賜
【佳作】 先生の重荷を下ろし卒業す	横山喜三郎
今年また買ひ足してをりバレンタインデー	横山喜三郎
まかり出て偏人奇人初芝居	横山喜三郎
また逢おうそのまた欲しや花の下	吉原瑞雲
うめるんじゃないぞ初風呂ボス健在	吉原瑞雲
【佳作】 屠蘇に酔う斗酒の昔もあったのに	吉原瑞雲